

Contents

Activities	1~2
Inspection	3
Information	4

Association of Japan Editing Companies

【事務局】 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-37-4 友田三和ビル3F
 TEL 03-3296-0769 FAX 03-3296-0779 URL <http://www.ajec.com/>

Activities

日本編集制作会社協会（日編協）が主催する「拡大編集セミナー 2007」が、11月8日午後1時30分より6時まで、東京・一ツ橋の日本教育会館で開催されました。このセミナーは、編集者教育の一環として毎年実施しているもので、第一線で活躍しているベテラン編集者や取次関係者などを講師に迎え、出版業界の現状や今後の展望などについて講演します。

第4回目となる今年は、非会員の編集制作会社や出版社などを含め、約100名が参加。講師の話に熱心に耳を傾けるとともに、活発な質疑応答が繰り広げられました。

「拡大編集セミナー 2007」開催



今年の「拡大編集セミナー」は、最初に集英社コミックス・コンテンツ販売部長の柳本重民氏が、「マンガビジネスの今、そしてこれから」をテーマに講演。マンガの売上は減少傾

向が続いているが、市場が元気を取り戻すためにはコミック誌の復活が不可欠であると述べました。

第2部は、日本出版販売www.（トリプルウィン）推進部MD課の富樫建氏が、「書店活性化とポイント制」と題して、日本出版販売が展開している「Honya Club」について解説しました。第3部は、オンラインマガジン「SooK（スーク）」の支配人を務めている小学館ネットメディアセンターの大家正治氏が、「順調に拡大するオンラインマガジンの可能性」と題して講演。出版物のデジタル化の現状や、ネットメディアの将来性などについて説明しました。

最後の第4部は、「光文社新書」を創刊した光文社出版局長の古谷俊勝氏が、「『知は、現場にある。』が企画のコツ」と題して講演。“形になる企画”とはどういうものかについてアドバイスしてもらいました。

日編協では、今後も広く門戸を開放し、編集者教育の場を充実させ、編集プロダクションにとって役立つ協会となることを目指していきます。（講演内容の詳細は次ページに掲載）

日編協の編集者教育制度

*講師の肩書きは当時

<拡大編集セミナー>

- 第1回「秋の全国研修会 2004 in 東京」（2004年10月21日、於・日本出版クラブ会館）
 「出版社は外注編集費をどう決めているか」（アーク・コミュニケーションズ・檜森雅美社長）
 「フリーペーパーの新しい展開」（凸版印刷企画販促本部・奥主恒雄氏）など3分科会
 「私たちはこういう編集プロダクションを求めている」（小学館出版局家庭編集チーフプロデューサー・田中 修氏）
- 第2回「全国拡大編集セミナー 2005」（2005年10月28日、於・日本教育会館）
 「出版が抱えている問題」（筑摩書房専務取締役・松田哲夫氏）
 「今どんな本が売れているか」（出版ニュース社代表取締役・清田義昭氏）
 「大人のための雑誌づくり」（小学館『サライ』編集長・東 直子氏）
 「増刷できる書籍づくり」（PHP研究所第1 出版局長・安藤 卓氏）
- 第3回「出版活性化セミナー 2006」（2006年11月9日、於・日本教育会館）
 「良書を出し続ける難しさ」（平凡社取締役編集局長・下中美都氏）
 「少しの工夫でベストセラーが生まれる」（日本出版販売www.推進部MD課・古幡瑞穂氏）
 「親と子に支持される雑誌作り」（小学館『小学一年生』編集長・塩谷雅彦）
 「半歩先をいく新潮新書のベストセラー術」（新潮社『新潮新書』編集長・三重博一氏）

<編集技術講座>

- 第1期「編集技術講座 2006」（基礎編/年10回、於・日本教育会館）
 「今日の出版界と編集者の役割」（講談社顧問・鷲尾賢也氏）、「売れる書籍の企画作り」（NHK出版図書出版部・大石陽次氏）ほか
- 第2期「編集技術講座 2007」（実践編/年10回、於・日本教育会館）
 「原稿を整理する」「書籍の構成を決める」など（小学館家庭編集部編集長・小川美奈子氏）
 「デジタル時代の校正の基本」（麦秋アートセンター代表取締役・竹村義久氏）ほか

●マンガビジネスの今、そしてこれから

(株)集英社 コミックス・コンテンツ販売部部长
柳本重民氏



コミックスと雑誌を合わせたマンガの売上は、ピーク時と比べると約1,000億円減少しています。これは雑誌に元気がないためで、以前は雑誌の読者がコミックスを買っていましたが、新古書店やマンガ喫茶の登場により、雑誌を買わずにコミックスだけをまとめて

読む読者が増えています。こうした中でコミックスの売上を伸ばしていくためには、読者が作品に手を伸ばす入り口を多く作ることが重要です。最近は書店だけでなく、コンビニやインターネットでも買えるようになっていますが、価格や形態についても読者のニーズに合わせて先手を打っていかねばなりません。そして何よりも、雑誌が以前のように元気を取り戻すことが不可欠です。作家の才能や努力、編集者の情熱、読者の厳しくも暖かい目で育てられた作品が、有力なコンテンツであることに変わりはありません。

●書店活性化とポイント制

日本出版販売(株) www.推進部MD課係長
富樫建氏



私たちが展開している「Honya Club」は、購買データの収集・分析を行うために、会員となるお客様に個人情報を提供してもらい、その対価として本を購入していただいた際にポイントを付与します。これにより年代や性別などに分けて、どんな本が売れているかとい

ったことを細かく把握することができます。従来の書店は、他の小売業と比べて受け身で、店員がお客様に声をかけて本を勧めるということがほとんどありませんでした。しかし、今やインターネットで読者の感想など、本に関するさまざまな情報を得ることができます。書店も積極的にお客様にアプローチし、これまでにないサービスを提案していかなければならない時代になってきました。今後は会員数をさらに増やし、ポイントの全国共通化や他業界との提携など、「Honya Club」が業界標準になることを目指していきます。

●オンラインマガジンの可能性

(株)小学館 ネットメディアセンター「SooK」支配人
大家正治氏



近年、雑誌の売上は下がり続けていますが、その一方でニッチなテーマを深く掘り下げたような雑誌は売れています。ただ、こうした雑誌は、発行部数があまり多くありませんので、紙媒体では必要としている読者に届かない場合があります。そこで、一つのテーマ

を深く掘り下げた電子雑誌を集め、「雑誌の市場」とも言える「SooK」を作りました。電子雑誌でも、ページをめくる感覚を味わうことができますし、紙の雑誌と同じ編集者やライター、カメラマンで作っていますので、クオリティも変わりません。このまま雑誌の売上が落ち続けると、ライターやカメラマンなどが自分たちの才能を生かす場がなくなってしまうのではないかと心配です。その意味でも電子雑誌のような媒体をつくり、ライターやカメラマンたちの才能を育てることも、出版社の役割ではないかと思っています。

●「知は、現場にある。」が企画のコツ

(株)光文社 出版局長
古谷俊勝氏



「これ面白いんです」と企画を持ってこられるのが一番困ります。もちろん「面白い」とか「好き」とかいうことは大事なことです。ただ面白いと言われてもこちらには伝わりません。本を編集して出版するということは、面白さを読者に伝える作業です。その

面白さを説明できるようにすることが大切です。私は企画会議もほとんど信用していません。会議のために考えられた企画は、企画を通すことが先決になりがちで、売れた本の二番煎じになってしまうことが多いのです。企画で一番大切なのは、クリエイティブ性です。今までとは違うことを考え、実行することで、新しいものが生まれてくると思います。そういう意味では、どうやって差別化を図るかというポジショニングと、どうやって伝えていくかという全体のデザインが、とても大切なことではないでしょうか。

Tour of Inspection AJEC 海外研修報告

今年の「AJEC海外研修」は、8月31日～9月5日に中国の北京・大連を視察しました。前半は「北京ブックフェア」(第14回北京国際図書博覧会)を、後半は大連のDTP会社を中心に訪問しました。参加者は、オフィス201の細江弘司氏、TU・TI編集室の土田俊子氏、カルチャー・プロの塩川政春氏など、私(小林哲夫=エディット)を含めて6名でした。

◆活気に溢れた北京ブックフェア

北京ブックフェアは1986年に初めて開催され、今年で21年目を迎えます(当初は隔年開催)。年々規模が拡大し、今年は59か国・地域が参加。出展数は1,463ブースに達し、総入場者数は22万人を突破するなど、アジア最大の国際ブックフェアです。

日本からの参加は、日本事務局によると38ブース、149社となっていました。実際にははるかに少なく、



天安門広場でのスナップ(左)と大連のDTP会社を視察したときの模様

北京ブックフェア&大連DTP事情視察

展示物は貧弱で、スタッフも数えるほどしかいませんでした。このため人通りはまばらで、「寂しい」の一言でした。

それに比べて、主催国の中国はもとより、海外のブースは活気に溢れ、来場者の多さには目を見張るものがありました。とくにドイツ、アメリカ、フランス、スペイン、イタリアなどの欧米の出版社は、ブース規模も大きく、スタッフの動きやイベントも活発で、世界の出版界がいかに中国市場に注目しているかがよくわかりました。

◆急速に発展する大連のDTP業界

大連では、先に教材・デジタル部会で講師を務めていただいたエコーインテック(株)の尾頭豊社長の計らいにより、現地のDTP会社である大連文博信息技术有限公司、大連光進技術有限公司、大連英浩信息技术有限公司の3社と、専門学校の大連電子学校を訪問しました。

大連はビルが次々に建設されるなど急速に発展しており、DTPに取り組む会社やスタッフが増え、技術レベルも著しく進歩しています。今回訪問したDTP3社は、インデザインや



「第14回北京国際図書博覧会」の会場前にて

エディカラーを使って日本語組版業務を専門に行っており、顧客はすべて日本企業です。また、大連電子学校も日本企業とタイアップし、産学協同の実務教育を行っています。

このように大連と日本の結びつきは想像以上に深く、若者たちは日本語を学び、日本の技術を修得し、日本企業が追い求めてきた品質・コスト・スピードといったビジネステーマを、もっと早い速度でクリアしようとしています。日本の出版・印刷業界は、彼らとの新しい付き合い方が求められていると感じました。

◆改めて中国のスケールに驚く

北京では、ブックフェア以外に世界遺産の天壇公園、天安門広場、故宮、頤和園、万里の長城などを巡り、北京ダック、四川火鍋料理などを賞味。大連では、大連港やロシア風情街、星海公園、大連商城を散策し、餃子料理や海鮮料理を堪能。改めて中国のスケールの大きさに驚くとともに、参加者の間で親交が深められた6日間でした。(レポート・小林哲夫)

Admission

新入会員社紹介

「正」は正会員、「賛」は賛助会員、「準」は準会員

準 株式会社 U-Tee

住所 〒153-0041 東京都目黒区駒場3-11-13 アーク駒場野4F
TEL. (03)5452-2021 FAX. (03)5452-2051
URL <http://www.u-tee.jp/>

代表者 代表取締役 大塚悠司 設立 2007年3月6日

取引先 (株)学習研究社、(株)梧桐書院、(株)中経出版、(株)ナガセ(東進ブックス)、(株)四谷大塚出版、他

特徴 東京大学の学生が経営する初の編集プロダクション。数年前まで受験勉強をしていた東大生が企画立案から関わり、受験生のニーズに的確かつタイムリーに応えます。25名の学生社員と300名超の専門登録スタッフ(東大生)による大規模作業で、短期間かつ低コストが可能です。

準 有限会社 ライフデザイン

住所 〒221-0831 神奈川県横浜市神奈川区上反町2-26-15 2F
TEL./FAX. (045)316-4505

代表者 代表取締役 北見義紀 設立 2005年7月21日

事業内容 図書の出版販売およびマンション管理に関する情報の提供に関する事業、他

特徴 マンション管理の情報発信を主な目的とする業界紙の記者出身で、NPOかながわマンション管理組合ネットワークの広報誌を手がけています。また、マンション管理関連企業からの会社概要制作、簡単なHP制作、マンション関連本への執筆等にも携わっています。マンション管理という専門的な知識を生かした媒体を発信する個人会社です。

秋季ゴルフコンペ

10
4

協会主催の秋季ゴルフコンペが、10月4日（木）、千葉県八千代市の「中山カントリークラブ」で開催されました。毎年春と秋の2回行われているこの親睦ゴルフコンペは、仕事から離れて会員間の親睦を深め合う場として大きな役割を果たしており、39回目を迎えた今回は5組20名が参加しました。

優勝は(株)メイテックの鈴木裕氏で、グロス100、ネット71（HD29）でした。

2位は同じくネット71で回ったビジネスワイヤ・ジャパン(株)の小林明夫氏（特別参加）、3位は(有)ヤナイクリエイティブの柳井正義氏が入りました。



拡大編集セミナー2007

11
8

今年で4回目を迎えた「拡大編集セミナー」が、11月8日（木）に東京・一ツ橋の日本教育会館で開催され、100名近くが参加しました。拡大編集セミナーは、出版業界の第一線で活躍されているベテラン編集者や取次関係者などを講師に招き、出版業界の動向や課題などを語ってもらい、編集プロダクションの進むべき指針を探ることを目的としています（詳細は1～2ページをご覧ください）。

秋の例会

10
18

秋の例会が10月18日（木）18時から東京・神楽坂の日本出版クラブ会館で開催され、20名が参加しました。講師は税理士の今村 正氏で、「知っておきたい事業承継対策」をテーマに、非上場株式の評価方法、自社株の親族への売買、相続・贈与する場合の問題点など、事業承継対策の進め方に関してポイントを押さえてわかりやすく解説。講義終了後には質問が相次ぎ、改めて事業承継に対する関心の高さを示す例会となりました。



「秋の例会」で講師を務めた税理士の今村正氏



編集技術講座

10
26 11
16

第2期「編集技術講座」（実践編）の第6回講座が、10月26日（金）18時30分から東京・一ツ橋の日本教育会館で開催され、64名が出席しました。当日はフリーライターの武田 薫氏が講師を務め、「取材と原稿の書き方」について講義しました。

また、11月16日（金）には第7回講座が開催され、「デザイン・レイアウトのセオリー」、「デザイン・制作のセオリー」（共にグラフィック社）などの著作があるデザイナーの佐々木剛士氏が、「編集者のためのデザイン・レイアウトの基礎」と題して講義。60名が出席しました。

第2期編集技術講座の今後の予定は、右表の通りです。最終回の第10回講座の後には同会場で懇親会を開催し、冒頭、全カリキュラムを受講した方に修了証を授与する予定です。



第7回講師の佐々木剛士氏



第6回講師の武田 薫氏

回	開催日	講義テーマ
8	1/25	紙の知識
9	2/22	印刷の知識と最新技術、製本の種類
10	3/14	出版と法律

会場：日本教育会館第5会議室

*お申し込みはホームページ (<http://www.ajec.com>) に掲載しています所定の用紙に必要事項を明記の上、FAX (03-3296-0769) で事務局までお送りください。あるいは、E-mailで、①受講回、②受講人数、③受講者名、④連絡先を記載し、office@ajec.comまでお送りください。
*受講料(3,000円)は当日の徴収になります。*記載された講義テーマは、今後変更となる場合があります。

忘年会

12
12

2007年最後の行事となる忘年会在、12月12日（水）18時30分より山の上ホテル別館のレストラン「アビアントー」で開催されました。当日は会員のほか、例会などで講師を務めていただいている税理士の今村正氏や、社会保険労務士の中村俊之氏なども出席。50名近い参加者が、終始和やかな雰囲気です。フランス料理とワインを楽しみました。

「EDITOR'S DIARY」発行

協会が毎年発行している手帳「EDITOR'S DIARY」の2008年度版が、このほど発行されました。今年のエディタースダイアリーはデザインを一新。1日分の記入スペースを拡大するなど、より使いやすく、携帯しやすいように改良しました。また、2007年10月に改訂された「編集制作料金基準表」をはじめ、改正下請法、関連団体の連絡先なども掲載しています。定価は1,300円（会員価格1,000円/税込、送料別）です。

